



2018年9月発行

TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

## 長野市活断層ウォークに参加しました！

進路が西向き台風12号が日本列島に迫っていた7月28日(土)、信州大学理学部主催の「長野市活断層ウォーク」というイベントに参加しました。善光寺に行かれたことのある方は、ご存知かもしれませんが、長野駅から善光寺に向かう道は、善光寺に向かって緩い上り坂になっています。実は、ここに長野盆地西縁断層が通っており(図1)、1847年の善光寺地震のときにも、この断層が動いたと考えられています。

まず、善光寺の南西、ひまわり公園で、断層が動いてできた崖を観察しました。このあたりは古くから市街地だったところなので、人工的に土地が改変されてしまっているようですが、数メートルの明瞭な高低差が認められ、地震で北側の地盤が相対的に上がった様子が見てとれました。この断層は、何と、県庁の真下に伸びているそうです(図1)。次にこの断層が動いた時に県庁は大丈夫なのか、不安を覚えなくもないですが、現在、活断層上の建設を規制するような規則は、徳島県など一部自治体で条例があるだけとのこと。

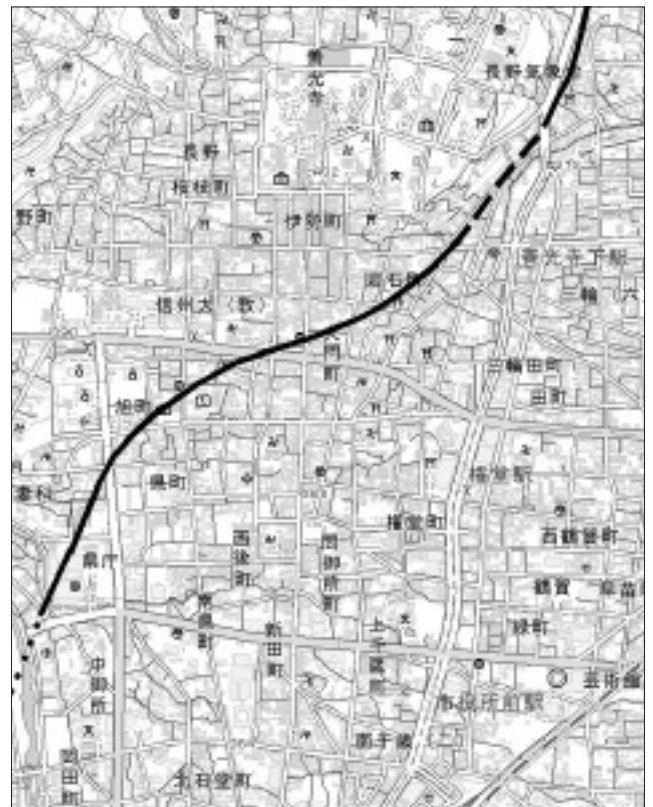


図1 長野盆地西縁断層(黒線)の位置  
地形図は「地理院地図」、断層の位置は、「東郷正美・堤浩之・宮内崇裕・大石超・宇根寛・小田切聡子(2000):1:25,000 都市圏活断層図「長野」, 国土地理院」より引用。



写真1 ひまわり公園の断層崖



写真2 善光寺本堂西側の鐘

善光寺では、本堂西側の鐘のあるところを目指しました。大勢の参拝客が居られて、なかなか近づけなかったのですが、空いたのを見計らって、近づいてみると、善光寺地震のときに鐘が落ちたときの傷跡がありました。善光寺の境内や周辺では、2014年に、長野市からだいぶ離れた白馬村の神城断層が動いた地震のときにも、境内や周辺の灯籠が倒壊するなどの被害が起きていたとのことで、ところどころ、壁を補修した跡などが目に付きました。

最後に善光寺の東側にある城山公園に行きました。ここは小高い丘になっていますが、丘の東端に断層が伸びています。崖の比高は、数十メートルくらいあるように見え、最初にひまわり公園でみた崖と比べてはるかに高くなっています。これは、こちらの方が、古い時代にできた地形面のため、何度も断層がずれることで、高い崖となったと考えられています。

幸いこの日は、台風が近づいていたにもかかわらず、雨にも降られず、気持ちの良いウォーキングができました。しかしながら、ほっとしたのも束の間、夜には、活断層ウォーク第二部が待ち構えていたのであります。というのは、南信では、台風の影響で風雨が強まっていたため、往路に利用した飯田線が早々に運休となってしまったのです。何とか高速バスで松川インターまでたどり着き、松川インターから伊那大島駅まで、強風の音に慄きながら、ただ一人、伊那谷の断層崖を歩いて下ったのであります。(宮崎)



写真3 善光寺地震時にできた傷



写真4 城山公園の木の陰から東側の市街地を望む

この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢者対策など地域住民の福祉向上のために使われます